

八ツ面っ子の「第二の教室」

～ 八ツ面山で学び・心・命をつなぐ ～

西尾市立八ツ面小学校

長谷川

崇幸

本校の東側には、八ツ面山があります。地元の歌や校歌に使われたり、市民が見やウォーキングを楽しんだりする愛される山です。本校の子どもたちは、毎日この山を見ながら、「第二の教室」として大切にしています。

山は、子どもたちの「学び」をつなぎます。四年生は、山の麓に生息するヒメタイコウチについて学びます。天然記念物を通して、自然環境について考えています。五年生は、山の木々について学びます。植樹をし、自分たちの山の今とこれからについて考えます。六年生は、「きらら鈴」づくりをします。今でこそ少なくなりましたが、八ツ面山では、雲母が採れます。きららと光るこの鉱物は、その見た目から「きらら」と呼ばれています。これで土鈴を装飾するのです。名人に教えを仰ぎ、作ることで、郷土の文化を継承しています。

また、山は、子どもたちの「心」をつなぎます。春、ペア学年で花見へ出かけます。一・六年生は、芝生広場で一緒になつて桜を見、遊びます。卒業式で一年生がペアのお兄さん・お姉さんのために一生懸命歌うのは、この活動があるからです。秋、地域の方や近隣の保育園などと一緒に関心活動を行います。この

「しあわせ運動」は、身近にある自然を大切にするとともに、地域の一員であるという自覚を高めています。

さらに、山は子どもたちの「命」をつないでいます。地震の避難訓練後には、五年生が隣にある保育園の園児の手をとり、山へ登ります。命を守るとともに、小学生でも被災時にできることをするという考えを育てます。

夏に学校へクワガタムシが飛んできたり、冬には冷たい風が吹き下ろしたりと、子どもたちは、八ツ面山の四季とともに生活しています。この「第二の教室」で、八ツ面っ子はのびのびと育っています。

